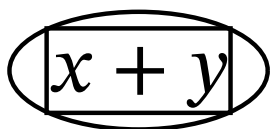


# MathML の menclose の楕円、擬似スクリプト

MathML の `menclose notation="circle"` で描画される楕円を境界矩形に内接させるか外接させるかの指定、擬似スクリプト (MathML 仕様書 [7.7.2 Pseudo-scripts](#)) の描画処理を指定できます。指定は AH Formatter のオプション設定ファイルで行い、`menclose notation="circle"` の楕円は `encloseCircle`、擬似スクリプトは `pseudoScripts` で制御します。既定値と設定ファイルを反映させた描画の差異は各サンプルの下にある画像をご覧ください。`menclose notation="circle"` で描画される楕円の指定は AH Formatter V6.3 から利用いただけます。

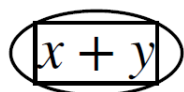
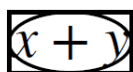
## `menclose notation="circle"` で描画される楕円の指定

`encloseCircle` の指定で描画される楕円が境界線に `inscribed` (既定値) で内接、`circumscribed` で外接します。外接楕円は内接楕円の相似形となります。



`encloseCircle="inscribed"` (既定値)

`encloseCircle="circumscribed"`



## 擬似スクリプトの指定

`pseudoScripts` で `true` (既定値) を指定すると、`msup` などの上付き文字に対してその文字列がすべて上付き疑似スクリプト文字のときに、スクリプトレベルを変化させずベースラインも変化させません。`msub` などの下付き文字に対しても同様です。

$$(x', y')(X', Y')$$

$$f'(x) = f'(x)$$

$$(x_+, y_+)(X_+, Y_+)$$

`pseudoScripts="true"` (既定値)

`pseudoScripts="false"`

$$(x', y')(X', Y')$$

$$f'(x) = f'(x)$$

$$(x_+, y_+)(X_+, Y_+)$$